

いつボラ（いつでもボランティアチャレンジ）とは？

明治学院大学に在籍する学部生・院生、教職員が現代社会の新たなニーズを発見し、それに応えるため、自ら企画したボランティアを实践したいと思った“そのとき”に応募できる奨励金制度です。活動経費のほか、活動に関するアドバイスや学内施設の使用や広報活動など、プロジェクトのサポートを“いつでも”受けることができます。

応募内容

テーマ	「社会課題への第一歩」 社会課題を発見し、解決のためにアクションを起こすきっかけとなるプロジェクトを支援します。これまで活動実績がないスタートアップ要素の強い取組や、単発の企画を歓迎します。
奨励金	個人：上限 20,000 円 団体：上限 50,000 円 ※減額して採用となる場合があります。 ※採択金額に未使用が生じた場合は、未使用金額を返還する必要があります。
応募資格	・本学に在籍する学部生・院生、教職員（非常勤講師も可）が1人または複数メンバーで実施するプロジェクトであること。 ・活動開始から活動終了まで3ヵ月以内で完了するプロジェクトであること。 ・個人または団体の採用回数が、1年度で2回を超えないこと。
選考方法	応募書類（いつでもボランティアチャレンジ応募用紙）をもとに、面談を行います。 ※応募用紙は、ポートヘボン（ボランティアセンター>いつでもボランティアチャレンジ）よりダウンロードください。教職員は、ボランティアセンター代表メール（下記参照）にご依頼ください。

いつでもボランティアチャレンジは、明治学院大学の教育理念「Do for Others（他者への貢献）」の精神に則り、「誰かのために」そして「社会課題を解決するために」、**自発的に行動する意志をより強く応援するためにつくられた制度**です。みなさんの「やってみたい」を実現するために、ボランティアセンターが様々なサポートをします。自由な発想にもとづく想いを持ち込んでください。また、「できるかな？」という段階のアイデアも大歓迎です。ぜひご相談ください。



明治学院大学ボランティアセンター

開室時間：月曜日～金曜日（祝日授業日は閉室）
voluntee@mail.meijigakuin.ac.jp（代表）

【制作】SHOE MEAN DUCK（毛柴有喜・佐藤海）
【協力】石井優衣、岩倉日南子、鈴木雄太、鈴木悠介、平松桂、松田実久



web



Instagram



X

いつでもボランティアチャレンジ

ボランティアセンターの制度

いつでも応募受付中

「いつボラ」を活用した学生に聞いてみた
そもそも、ボランティアってなんだっけ？

自分の活動を通して、他の人が社会について考えたり、新たに行動を起こしたりするきっかけを作れるかもしれない。実際にボランティアを通して感謝されたり喜ばれたりすることももちろん嬉しいけど、そんな「誰かに影響を与えられるかもしれない」という可能性に、特にやりがいを感じているのではないかと思います。自分にとってボランティアとは、思わず動いてしまうこと。それは必ずしも、苦痛を感じながら続けることだけではない。誰かの



ために何かしたいと思って考える間もなく行動してしまう、ということなのかなと今は思っています。

岩倉日南子 (社会学部 社会福祉学科)

生活困窮者は経済的理由等から外出機会が少なく社会的孤独に陥りやすい、という課題意識のもと、ホームレスへの飲食提供やコミュニケーションといったアウトリーチ活動、生活困窮者の居場所や外出機会の創出等の活動をいつボラで企画。

これまではボランティアについてあまり深く考えたことがなく、炊き出しに行くとか物資を送るとか、一方的な行為として捉えていたような部分もありました。しかし実際に活動していくなかで、何かをしてあげるんじゃなくて「一つのものを通して他の人と繋がりを持つ」ということを大切にしたいと思うようになりました。ボランティアにも色々な目的や活動があると思いますが、私は「自分の好きなことや得意なことを通してこれまで関わりのなかった人と出会う」というところにボランティアの根っこがあるのではないかと考えています。



石井優衣 (文学部 芸術学科)

華道の魅力を多くの人と分かち合うための機会や、華道を通じたコミュニケーションの場をつくりたいという想いから、大人から子どもまで参加できる「Kawaii 華道教室」をいつボラで企画。

私は人のために何かするというより、一緒に考えていくための機会を作りたいという想いがあり、最初はそれがボランティアに結びつくとは思っていませんでした。しかし今回の実践を通して、同年代の学生たちと色々な意見や想いを分かち合うことができ、ボランティアは必ずしも一方通行のものではなく、互いに学び合う営みでもあるのだという考えに変わりました。自分なりの切り口から、ボランティアとつきあっていくこともできるのだと気づききっかけにもなりました。



松田実久 (国際学部 国際学科)

性感染症への危機感や課題意識を高めてほしいという想いから、学内で「akta と語る性の話」をいつボラで企画。有識者を招いた講演や、性感染症予防対策の方法について学生同士で議論するワークショップを実施した。

アルバイトには大体マニュアルがあって、その通りにやれば時給が発生する。だからあまり自分の頭で考えないまま動いてしまうことが多いのではないかと思います。でも今回の実践は、最初から最後まで自分の頭で考えてやったこと。それが誰かの役に立てたということが、シンプルにとっても嬉しかったです。ボランティアって、言ってしまうと自己満足かもしれない。自分のやりたいことをやる。だからこそ、誰かに何か言われたりお金をもらったりしなくても動けちゃう。それで他の人が喜んでくれたら、winwin だと思います。そういう気軽な気持ちで取り組んでもいいんじゃないかと僕は思います。



鈴木雄太 (社会学部 社会福祉学科)

長年サッカーに携わってきた経験やそこでの学びを生かし、コロナ禍でスポーツに触れる機会が少なくなってしまった子どもたちに向けて「初心者歓迎！子どもサッカー教室」をいつボラで企画。

※ボランティアを実践している学生の様子は
明治学院大学ウェブサイト「ボランティア体験記」からご覧いただけます
https://www.meiji.ac.jp/volunteer_activities/about_experience/